

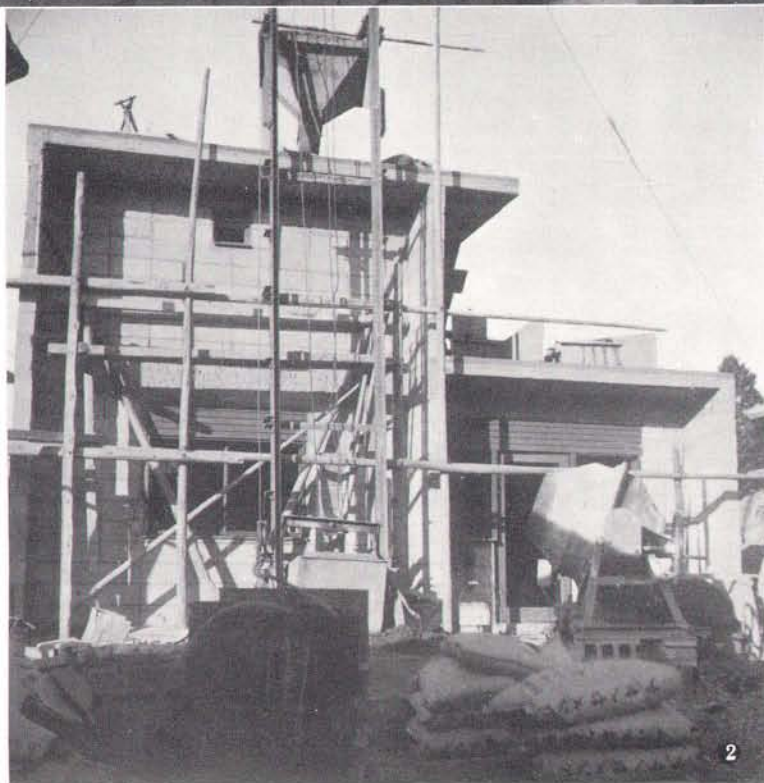


1

◇堂平の建設風景

堂平観測所に建設中の夜光・極望遠鏡観測室。上は極望遠鏡観測室の部分で、手前が半地下式の観測室。立っている円筒は天頂星観測用の光の通路で、完成後はこの円筒がほぼ埋まる程度に土層でおおわれる。後方の建物は、シャッター、デイト・スイッチ、晴曇監視装置などがおさまられる。この建物の下部の穴は、北極距離  $1^{\circ}$  以内の星野を観測するための光の通路となるもので、完成後は全く土におおわれる。

下は夜光観測室を南の正面から見たもので、写真では見えないが、屋上に観測装置の取付け台が数多く作られている。この建物は上の極望遠鏡観測室と連結している。



2



◇故畑中武夫氏略歴

- 大正 3. 1. 1 和歌山県新宮市に生る
- 昭和 12. 3. 東京帝国大学理学部天文学科卒業
- 13. 10. 東京帝国大学助手兼東京天文台技手
- 20. 7. 東京帝国大学理学部講師
- 20. 9. 理学博士
- 20. 11. 東京天文台技師
- 21. 2. 兼任東京大学助教授
- 28. 12. 東京大学教授（東京天文台）
- 29. 4. 東京大学教授（理学部併任）
- 32. 6. " （理学部），（東京天文台併任）
- 38. 1. 日本学術会議会員
- 38. 11. 10 正四位勲三等に叙し，瑞宝章を授けられる
- 38. 11. 10 死去，49 歳 10 ヶ月
- 38. 12. 3 位一級を追叙

なお本会にとっては昭和 22 年 4 月理事，33 年 5 月評議員，36 年欣文報告編集長となり，引きつづいて役員として本会の発展に貢献された。



3

◇ありし日の畑中武夫氏

1. 東大助手時代、麻布の古いドームを背景にして。
2. 1959年、麻布の旧天文学教室の一隅にて、左より畑中、萩原、藤田、海野の諸氏（渡部雄吉氏撮影、文芸春秋社の好意による）。
3. 1959年10月高松の天文学会春季年会のエクスカージョンの際、屋島でのスナップ。清水実（前）、森本（後）両氏のかごにのる。
4. 1958年8月のIAU総会に出席の際モスクワ大学天文台を訪れた畑中氏（左端）、中央に宮地前東京天文台長がみえる。



4